

編集・発行 栃木県農地・水・環境保全向上対策推進協議会  
〒321-0901 宇都宮市平出町 1260 水土里ネットとちぎ  
TEL:028-660-5706 FAX: 028-660-5729  
E-mail: doren-s4@snow.ucatv.ne.jp http://www.tcgnochimizu.net/



### 情報・動き



#### ◆◆◆ 環境ブランドづくりに向けた動き ◆◆◆

鳥や魚、昆虫など、水田にすむ生きものなどの名前を付けた「生きものブランド米」が全国で生産・販売されはじめています。こうした取組は、生産者が田んぼの生態系に配慮し、水田に生きものを呼び戻すことを目的としてはじめられたものですが、食の安全・安心を求める消費者に受け入れられ、少し割高でも販売が好調なブランドがあるそうです。

こうした中、農林水産省では、多様な生きものとその生息環境に配慮して生産した農産物に表示する「生きもの認証マーク」の制度化を検討するなど、今後ますます動きが活発化してくると思われます。

本県では、環境への関心を高め、ひいては農業の振興や活性化に資するため、全地区で生きもの調査に取り組んでいるところですが、この度、フクロウとの共生をテーマに自然再生活動に取り組んでいる『逆面エコ・アグリノ里』において、2階部分である先進的営農への取組みに併せ、生産した米を『フクロウ米』として環境価値を付加した販売を進めています。

始まったばかりで、いくつかの課題があると聞いていますが、さまざまなイベントでの試食や配布など積極的なPR活動を展開しており、今後の発展が期待されています。



#### ◆◆◆ 取組グレードアップに向けて ～推進講座がはじまりました ◆◆◆

県協議会では、11月9日（日）を皮切りに12月7日（日）・2月22日（日）に、活動組織・県及び市町担当者を対象とした「グレードアップ推進講座」を開催しています。

この講座は、活動等に係る情報の提供や技術力向上を推進するために開催するもので、次のテーマを設定しました。

##### 11月9日（日）

- ・元気な農業農村と地域づくりの進め方

##### 12月7日（日）

- ・施設の長寿命化対策の効果的な推進に向けて
- ・先進的な農業生産の取組拡大に向けて

##### 2月22日（日）

- ・生態系保全の取組拡大に向けて
- ・農村景観の保全創出に向けて

対策も2年目を迎え、「活動のステップアップ」、「活動組織の充実」、「各種農業振興施策との連携」などを一層進めていくため、多くの方の参加をお願いします。



11月9日開催の様子（栃木県土地改良会館）  
約300名の出席がありました。

### 地域からの活動紹介

農地・農業用水等の資源は地域の農業振興を図る上で大変重要な施設であり、これらを長持ちさせるための点検・補修等の活動が進められています。

今回は、組織から報告された19年度活動の一部を紹介しますので、各組織においても重点的に取組願います。

漏水箇所へのコーキング材による目地詰め作業



『いさの環境保全会』

排水路溝畔の裏込め材による充填作業



『南金丸地域・環境・資源を守る会』

水路側面のはらみ箇所の修正作業



『花園の環境を守る会』

劣化した水路表面のコーティング作業



『芝河原地域資源保全隊』

ゲートの錆落としとペンキ塗布作業



『あじさいの里荒井』

高圧ポンプによる藻等の除去作業



『横林環境保全倶楽部』

法面崩壊の恐れがある箇所への竹柵設置作業



『片田・北滝環境保全会』

農道の凹凸箇所への砂利の補充作業



『岩崎自然環境保全会』

機能診断・補修技術習得のための研修会



『水と古代ロマンの郷・飯塚』

## 協議会からのお知らせ

### ◆◆◆ とちぎの生きもの調査わくわくフォーラムについて ◆◆◆

生きもの調査の成果発表と農村資源の大切さをテーマとした講演等を通して、組織間の情報交換を行うとともに、取組の質的向上と農村環境に対する県民への理解を促進するため、『とちぎの生きもの調査わくわくフォーラム』を開催します。多くの方の参加をお待ちしています。

- 日時 平成21年1月25日(日) 13:00~
- 場所 栃木県教育会館大ホール(宇都宮市駒生町1丁目1番6号)
- 内容
  - ・「生きものマップ・写真」コンテスト表彰
  - ・基調講演 元NHKキャスター 平野 啓子
  - ・事例報告(生きもの調査の取組成果)
  - (会場内にコンテスト応募作品を展示します。)



### ◆◆◆ 農業コンクールについて ◆◆◆

本県の農業・農村の持続的発展に向けた一助とするため、栃木県、JA中央会、下野新聞社主催による「元気な農業づくりコンクール」を実施しており、本年度は農村の活性化活動に取り組む組織等を対象とした『いきいき農村部門』で募集を行っています。農地・水・環境保全向上対策の取組を対象とした『農村環境保全向上の部』が設定されていますので、積極的に応募しましょう。

様々な課題を乗り越えながら一所懸命取り組んでいる各組織の努力や思いを発信していきましょう。募集締め切りは、12月8日(月)です。詳しくは市町にお問い合わせ下さい。

## 雑感



10月25日・26日の二日間、宇都宮市の産業会館(マロニエプラザ)で開催された『とちぎ“食と農”ふれあいフェア 2008』に出かけてみました。会場内では、各地域の特産品や農産物の直売をはじめ、各種体験、食と農に係る講演やイベントなど、盛り沢山で、大勢の来場者で賑わっていました。

私が思わず足を止めたのは、会場内の一角で行われていた栃木県農業振興公社主催の「児童画コンクール」入賞作品を見た時でした。いずれの作品も人物や生きものが生き生きと描かれ、農村の躍動感や農業の充実感が伝わってくる力作ばかりで大変感動しましたが、中でも、左の小学2年生の作品が大変印象的でした。

「お父さんと草刈り」といったタイトルだったように記憶していますが、作者は水路溝畔の草刈りをしているお父さんの傍らで、水路に落ちた草をすくい上げる手伝いをしています。

美しい農村づくりには、見た目の美しさもさることながら、他者への思いやり、共に生きるといった考え方、あるいは公共心といった、昔の農村には必ずあった精神的な美しさを取り戻すことも必要なんではないでしょうか。 [T.A]